

新年のご挨拶 理事長 都 相太

新年を迎え皆様いかがお過ごしでしょうか。

三千里鐵道は結成以来一年三ヶ月を経過し、昨年十月よりはNPO法人としてスタートしました。

募金開始より十ヶ月、募金者1,200人、募金総額は1,500万円になろうとしています。

これも皆様のご理解とご協力のおかげであることは申すまでもなく、執行部一同、その責任の重大さを痛感いたしております。皆様にお約束したとおり、資金管理は厳正に運用されています。

一昨年六月十五日の南北共同宣言は、その実行において紆余曲折を経ています。朝鮮半島は確実に平和と統一に向かっていることについては確固たる確信を失ってはいません。

二十一世紀は不幸にも「戦争」という形でスタートしましたが、アメリカの唱えるグローバリズムが、どのようなものであるのか、朝鮮半島に対する影響を、世界的視野において捉える重要性を痛感しています。

南北共同宣言後、冷戦思考を脱却し「南北朝鮮を等距離に見よう」という、三千里鐵道の視点と運動は微動だにしていません。

新年にあたり、「夢」を語ってはどのようにでしょうか。

非武装地帯、南北それぞれ2 Km、東西に伸びる軍事境界線約200Kmを、南北両政府の承認の元に約600万人といわれている海外同胞を中心として管理する。

当然、統一まで一切の軍事力を排除し、地雷などの撤去は世界のNGOに協力要請をし、鉄道・道路などの朝鮮半島の動脈は海外同胞が直接建設する。

また、非武装地帯の自然保護は徹底し、構築物は必要最小限に押さえる。

600万人海外同胞は100~200億円(一人あたり1500~3000円)の基金を確保し、当面の運用資金とする。

こんな夢を、南北両政府は海外同胞に託したならば、それぞれ二十一世紀のメッセージを世界に発信でき、正夢にもなるでしょう。

昨年、三千里鐵道はピョンヤンへの募金の伝達を2回ばかり試みましたが、残念ながら成果を上げることができませんでした。今年中には達成できるように努力いたします。また、この1~2月中には韓国政府統一部に、非武装地帯の京義線用線路1Km分680万円を届ける予定です。

朝鮮半島最北端白頭山から最南端の済州島漢拏山までの距離を三千里と言い、朝鮮半島全体を象徴する言葉でもあります。

最後に小説家趙延来氏の言葉を引用し、新年のご挨拶のしめくくりとします。

朝鮮半島はなぜ世界でも唯一と称されるように、白頭山から始まってよく似た形をした漢拏山で終わっているのだろうか。ひょっとしたら、白頭山の天池から漢拏山の白鹿潭まで、われわれの目には見えない虹が天空に架かっており、また、白鹿潭から天池まで、もう一つの虹が地中で繋がっていて、大きな円を描いているのではないだろうか。その大きな円に沿って民族の精気は循環し、生命力は蘇生しているのではないだろうか。誰にその謎を解くことができるだろう。たとえ解けないにしても、半島の両端に毅然とそびえ立つ

NPO法人三千里鐵道 10.27集会の報告

任意団体三千里鐵道を解散。残余財産をNPO法人三千里鐵道に譲渡

10月27日(土)名古屋YWCAビッグスペースにおいて、NPO法人三千里鐵道発足報告集会が開催されました。

集会では最初に、都相太理事長(代表)が、活動報告を行いました。6.15南北共同宣言を受けて有志を募りながら任意団体三千里鐵道の発足(2000年9月30日)にいたる経過、昨年6月17日、名古屋市公会堂で開催した南北共同宣言一周年祝祭『鐵馬は走りたい』の成果などを改めて振り返りながら、昨年9月29日の三千里鐵道第6回推進委員会議において、任意団体の三千里鐵道を解散し、残余財産については、NPO法人三千里鐵道に譲渡することが決議されたことを報告しました。

また、「まず線路1km分として680万円を北のピョンヤンに持っていきこうと考えて関係方面と折衝中であるが、それがかなわない場合には先に南のソウルに持っていき」考えを示し、とにかく実績を作って弾みをつけたいと語りました。

理事長は最後に、「NPO法人に変わったからといって会の目的が変わったわけではありません。NPO法人として社会的責任を一層負ったというように考えています。鐵道建設に関しては今後も紆余曲折が予想されますが、一喜一憂しないで淡々と私たちの運動を推めていきたい。」と締めくくりました。

韓国側建設現場訪問報告

理事長の報告に引き続いて、韓基徳事務局長から、京義線の韓国側建設現場の訪問報告がありました。南側では、9月30日に臨津閣近くの臨津江駅までの延長運輸が開始されており、それに実際に乗車してきたことの報告でした。

南側では鐵道工事が順調にすすみ、すでに臨津江にも鐵橋がかかり、線路は一路ピョンヤンを目指しています。南北関係が改善され、非武装地帯の中の鐵道建設工事に付いて合意が出来さえすれば、最初は地雷の撤去からになりますが、いつでも工事を開始できる状態にあります。

三千里鐵道発足一周年記念講演 講師：金石範氏(作家)

この日はまた、任意団体三千里鐵道の発足一周年を記念して、作家の金石範氏の講演をお願いしました。

先生は、自らが朝鮮『籍』を固持する理由について触れ「『朝鮮』は『南』でも『北』でもない朝鮮半島の総称であり、『南』のそして『北』の国籍を取得しない、統一朝鮮が祖国だという考えが、私の韓国籍取得を拒否させるんだ。だいたいだね、自分の国籍を『韓国』だとか『朝鮮』だとかいう。じゃあ、あなたはその片割れだけを意味する国籍を誇らしいものというのか、と私は言いたい。」と語り、「仮に朝鮮民主主義人民共和国と日本が国交を樹立しても、北の国籍を取得するつもりはない、あえて無国籍を選ぶんだ、この年寄りには。」と、あくまで分断国籍を拒否する姿勢を明確に示されました。そして、新編「在日」の思想でも触れられている「準統一国籍」の制定という考えについても述べられました。

先生の独創的且つ明快な論理と確固たる信念に改めて敬意を表します。

なお、先生は昨年11月、平凡社から金時鍾氏との対話『なぜ書き続けてきたか なぜ沈黙してきたか』を出版されました。祖国と在日の現代史を考える時に、そして人間の生き方を考える時によりき道しるべになる、本



磯貝 治良 1937年、愛知県半田市生まれ。

「在日朝鮮人作家を読む会」主宰。三千里鐵道副理事長。
文芸誌『架橋』編集発行人。
著書に小説『在日疾風純情伝』、評論『戦後日本文学のなかの朝鮮韓国』など。

「たら」が歴史を作りなおす

先日、KBSが放映した『朝鮮時代のジャパントウン』というビデオを観る機会があって、550年程前の朝鮮に日本人の町があったことを知った。これは15世紀の前半から16世紀前半にかけてチェ浦(鎮海)、釜山浦(釜山)、ヨン浦(蔚山)の三浦(サンポ)にあり、人口は最も多い時期、三浦合わせて約一万人に達していたと推定される。

『三浦倭人』と呼ばれた在朝鮮日本人は、定着していた者、公使、職位を授かった者、貿易商、帰化した者で構成されていた。三浦を通じた貿易は、対馬からの輸入の代表的なものは銅。輸出は、繭糸、麻、木綿など。最高時には、400隻もの船が出入りしたという。三浦倭人と朝鮮人の通婚などはなかったらしいが、友好関係は保たれていたという。

ところが、1510年4月4日、日本人による騒動(三浦倭乱)が起きて三浦は閉鎖され、1540年には国交断絶となる。約百年続いたジャパントウンは歴史から消えるのである。秀吉の朝鮮侵略はそれから半世紀後のことである。

ビデオを見ながら私は、文学などというフィクションを生きるものの悪弊がでて、もしジャパントウンが消滅せずに後の草梁倭館まで存在していたなら、秀吉の侵略もなく、歴史は違ったものになっただろう、と思ったものだ。三浦のジャパントウンに呼応して、対馬か九州のどこかにコリアンタウンができて、交流と友好の歴史がつづられていたかもしれない。(現代のコリアンタウンもその可能性大である。)

歴史に「たら」は禁句だそうだが、歴史に学び未来に生かすということは、「たら」を生かすことであろう。負の歴史がもし別の正の歴史だったら、どうであったか。私たちの想像力がそれを構想して、「いま、ここ」で活かし、未来の正の歴史につなげる。

朝鮮半島の分断も、日本の植民地支配がなかったなら少なくとも今日のような形ではありえなかった。だから統一問題はそのまま日本の戦後責任の問題なのだ。日本人が朝鮮半島の統一のために何かをするということは、植民地支配がなかったならありえはずの正の歴史を作りなおすということだろう。了

海外同胞と、平和統一を願う世界の人々と手を結んで・・・

三千里鐵道 〒440-0091 愛知県豊橋市下五井町青木31

Tel : 0532-53-6999 Fax : 0532-54-4931

Email : webmaster@sanzenri.gr.jp

web : <http://www.sanzenri.gr.jp>

